

目的 日本農業の主幹をなす施設園芸は、資本・労働ともに集約度が高く、その大部分が家族労働力に支えられた経営となっている。従って、婦人農業従事者は、生産と家事担当者として、さらに母親としての二・三重の役割を担い労働負荷は大きい。そこで、健康状態を貧血・高血圧を中心に把握し、労働従事・役割分担の生活上の諸要因を検討し、経営と生活の改善に必要な要件を導き出すことを目的とした。

方法 施設園芸の生産組合加入農家79戸（同じ旧村範囲）の婦人を対象とした。農家経営状況から婦人の労働従事状況（生活・生産両面）を評価する視点を定め評価項目を設定しその項目毎に個人レベルの労働従事を総合的に評価した。さらに、昭和55～57年の3年間の3回の検診結果から健康状態の総合評価をし、相互の関連を検討した。

結果 設定した評価項目（表参照）から、個々人の労働従事を対象者全体の分布の中での位置、農家経済調査等の値を基に5段階に評価した。この評価と健康状態からの評価との関連では、農業・家事労働の負荷大、役割の重層する者は、加齢に伴い健康上の問題を有する割合を高める結果を得た。これらの農業経営は、労働力2.0人（換算化）で労働集約の高い作型を年間延1000坪作付けしている農家に70%集中した。労働力保存に見合う経営規模・作付け体系への再検討の必要性が示唆された。また、老人介護を担う婦人が該当しており、地域福祉としての体制を確保してゆく必要性が指摘された。

表 評価視点と評価項目

視 点	評 価 項 目
I 1日の拘束量 負荷	①最も忙しい時期の農業労働時間
	② 同 上 炊事時間
II 年間の拘束量	③年間農業投下労働日
III 農業労働の質	④施設園芸作業の従事程度
IV 家事の役割分担	⑤家事サービス労働の分担程度
V 省 力 化	⑥ハウス施設整備状況
	⑦機械整備利用状況